

市長記者会見記録

日時：2019年9月3日（火）14時00分～14時24分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

《多摩区登戸新町刺傷事件関連について》

【司会】 お待たせしました。ただいまより市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。早速、質疑に入らせていただきますが、進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

【幹事社】 早速ですが、登戸の事件が昨日、刑事の捜査としては、被疑者死亡のまま書類送検という形で一応1つの区切りはついたんですけれども、現時点でカリタス小学校に対して市の支援策、どのようなことを行っているのかということです。なかなか動機が見えない部分で非常に難しいと思うんですけれども、今回の事件から得た市としての教訓というか、課題についてお話しできればと。

【市長】 本当に、いわゆる被疑者死亡という状況の中で、原因だとか動機だとかというのは解明されていないので非常に、これをどう、何というか、教訓だとか対策に結びつけていくのかというのは非常に難しいなと思います。しかし、やはり地域全体で子どもたちの安全を見守っていくという体制が改めて多摩区でもそうですけれども、体制が整ってきているというのは、1つの教訓が形にあらわれたということだと思っています。いずれにしても、本当に子どもの通学の時の安全対策というものは、学校だとか、そういったところとこれからもしっかりと協議をしていきたいなと思っています。

【幹事社】 また繰り返しになりますけど、動機がはっきりしない部分の中で、市の精神保健センターとのやりとりもあったということですが、そこについての対応の是非についての検証というのはされているのでしょうか。

【市長】 はい。今回かかわった心理職が全員、振り返りというか、対応がどうだったのかということも含めて集まって検証しております、非常に初動の時から対応が早かったとカリタスさんからも大変感謝をいただいているということもございますし、私どもの中でもしっかりとした対応がとれたんじゃないかなと思っています。

【幹事社】 对学校との今、お話をおっしゃったと思いますが、被疑者の家族から

の相談を受けての精神保健センターのやりとりについても検証というのはされているんですか。

【市長】 ごめんなさい。それは、今、確認しておりませんが、ちょっと確認させてください。

《あいちトリエンナーレ企画展関連について》

【幹事社】 わかりました。ちょっと1点、話は変わるんですけども、前回の会見の時に、愛知のトリエンナーレの関係ですね。市長、もし自分が同じ立場だったら、非常に判断が悩ましいというようなお話をされていたと思うんですけども、改めて公金を出すイベントについて、いろいろ、市長個人のお考えはあると思うんですけども、行政のトップがこのイベントはいいですよ、悪いですよということに言及することについては、市長はどのようなお考えでしょうか。

【市長】 本当にこの前から悩ましい状況というのは続いておまして、そういった意味で明確な答えになっていないという状況ですけども、やっぱりこの前も言いましたように、これが政治活動なのか、芸術活動なのかというものの主目的というか、当然政治活動に対して公金を使うことというのはあり得ない話なので、ですから、その見極めが非常に悩ましいというのはこれまでもありましたし、これからもそのところは1つの判断材料になってくるんだと思います。ただ、首長がこれが望ましいか、望ましくないのかということを行うのは、それ自体は本来であればあってはいけないというふうには思っておりますけれども、悩ましいですね。

【幹事社】 悩ましいと思うんですけども、先般、県知事のほうは自分のお考えを述べて、もし神奈川でやるんだったら、やるべきでないというようなことを断言されたんですけども、それに対しての言及というのはなかなか難しいと思うんですけども、今、市長がお話しになったように、首長がその是非について明確に判断するというのがあるべきものではないというお考えなんですか。

【市長】 そういう意味では、公金を支出する際の執行権者とすれば、最終判断はしなければならぬので、ただ、本当に個別のケースによると思うんですよ。繰り返しになりますけれども、主が政治活動のところでしょうというものには当然判断しなければならぬので、それはなるべく恣意的な判断にならないような形での判断というのが大事だと思いますけれども。

【幹事社】 わかりました。

【市長】 はい。

【幹事社】 ありがとうございます。

《令和元年度川崎市総合防災訓練について》

【幹事社】 おととい、防災の日を迎えまして、今度、市のほうでも総合防災訓練が控えています。今年に入ってまた大雨の被害が九州を中心に大きくなっていますけれども、警戒レベルもわかりやすい表示をということで改正された中で迎えたこの防災の日、この期間ということで、改めてどんな思いで次の訓練に臨まれるか、それから、どんな思いを持って皆さんに訴えていきたいかという思いをいただけますか。

【市長】 今回の総合防災訓練は幸区で行いますけれども、区内22カ所の指定避難所、これを一斉に開設するという形で、初めての試みになります。そういった意味では相当混乱すると思うんですね。ただ、その混乱の中から、私たちは大きな気づきを、住民同士もそうですし、私たち行政も課題を発見し、それを修正していくということにしていきたいと思っておりますので、訓練のための訓練ではなく、なるべく実践というか、緊張感を持ってやれるような、そういった訓練にしていきたいと思っておりますし、そういう心づもりで市民の皆さんにもぜひ参加をしていただきたいと思います。

【幹事社】 市長の当日の予定といいますか、想定としては今どのような動きになっていますか。

【市長】 ごめんなさい。ちょっと1回、私もレクを受けていますけれども、今は、把握しておりません。

《バスケットボールW杯について》

【幹事社】 わかりました。もう一つ、別な話題ですけれども、今、バスケットボールのワールドカップが始まりまして、今日、2試合目を迎えます。川崎から2人の選手の応援ということでのぼりも出ていますけれども、どんなふうに見ていらっしゃいますでしょうか。

【市長】 そうですね。今年と来年、バスケットはものすごく盛り上がる年になると思います。その第一弾の大きいイベントですので、ファジーカス選手と篠山両選手、川崎(ブレイブサンダース)のメンバーですので、是非お二人の活躍を期待したいし、子どもたちはじめ多くの市民の皆さんに勇気を与えていただきたいなと思っております。

【幹事社】 ありがとうございます。

幹事社からは、以上です。各社さん、どうぞ。

《（仮称）差別のない人権尊重のまちづくり条例関連について》

【記者】 あいちトリエンナーレの話に戻るんですけども、今回、黒岩知事に対して、表現の自由に対する侵害であるということで弁護士の団体さんが抗議声明を出されたということが今日あったんですけど、それについてのお考えというのを改めて聞かせていただけますでしょうか。

【市長】 それ、抗議団体って？

【記者】 弁護士の団体さん。

【市長】 弁護士の団体から抗議声明ですか。

【記者】 抗議声明が今日出されたんですけども。

【市長】 そうなんですか。

【記者】 はい。

【市長】 いや、それについては、私は特にコメントはありませんけれど、そうなんですかという感じですね。申しわけありません。

【記者】 いいえ。知事がそもそも、少し先ほどご発言ともかぶってしまうところがあると思うんですけども、知事が認められないと言ったことに対して、表現の自由ということで考えると、市長としては、お考えはいかがでしょうか。

【市長】 そうですね。ちょっと、私の考えは、今回のケースに当てはめた時に、どう考え、どっちなんだろうというところが迷っているというか、非常に微妙なところだなという段階で、知事がどうだというのを私が言うのは、自らの考えをまだ決めてない中で言うのは少し僭越過ぎるかなと思いますので、控えさせていただきたいなと思います。

【記者】 ヘイト条例も控えているので、その辺りもちょっと改めてコメントいただきたいんですけども、表現の自由への配慮というところについて、その辺りどう配慮していかれるかというところのお考え、すいません、改めてご意見いただけますでしょうか。

【市長】 表現の自由というのはそもそも憲法で保障されていることなので、ただ、全ての表現が、全部が全部許されるかというところ、そうではないですよ。それでもって傷つけられるとか、そういったものがありますから、そういう意味では、表現の自由が、全てそれで通用するかといったら、そうではないという考え方を持っていますけれども。

【記者】 週刊誌でも日韓関係がご存じのとおり、見出しに出てしまった『ポスト』の話題ですけども。

【市長】 ごめんなさい。

【記者】 日韓関係で、「韓国は必要ない」というような週刊誌の見出しが今、話題になっていますけれども、それについて、日韓関係の悪化というのもさらに深まっているところですが、その辺りは今後の環境として、ヘイト条例制定の環境としてはどのように考えていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 いや、基本的には日韓関係の問題とこのヘイト、いわゆる人権尊重のまちづくり条例とは全く別のものがありますので、そこはしっかりと切り分けて見ていただきたいですし、市民の皆さんにもそういうことだということをご理解をいただくようにしていただきたいと思います。決して、何と言うんでしょう、市民を不当な差別から守るということが今回の趣旨ですから、ヘイトスピーチもその1つでありますけれども、あらゆる不当な差別から守っていく、市民を守っていくということでありますから、日韓関係と、というのは全く違うものだと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【市長】 はい。

《英国事前キャンプ関連について》

【記者】 オリンピックの英国の事前キャンプの川崎サポーターの募集が昨日、締め切って、ちょっとまだ集計中だったということなんですけれども、昨日の（議会）開会のご挨拶でも、定員を上回る募集があったということで、ちょっと関心が思ったよりも高いのかなという気はしているんですけれども、それについての受けとめと、ここ1年で来年に向けてどういう準備をしていきたいかというのをちょっとお伺いできますか。

【市長】 私も、先週の段階で聞いている数だと、募集定員が300名のところ、900人を超えている数字だと、3倍ぐらいの方から申し込みがあったということ聞いています。そういう意味では、若い方からお年をめした方までかなり幅広く、何かお手伝いできればという形で思っていたらいい。そのお気持ちに正直、本当にうれしいですし、これだけの応募があるということにちょっとびっくりしました。非常に、書いていただいている論文というか自分のPR文みたいなものがあるわけなんですけれども、そういうのに熱い思いを何度も繰り返しアピールされている方もいると聞いて、是非そうした思いを英国の代表チームの皆さんにうまくおもてなしにつながるような取組にしていきたいなと思っています。ですから、せっかく応募してくださった方が漏れましたとなった時に、はい、それまでということになってはすごくもったい

ないなと思っているんですよね。ですから、何らかの形で、その気持ちを生かしていただけるような形を作れないかなというふうには、今、個人的には思っています。

【記者】 その予定としては、漏れてしまった方にも何らかお手伝いいただけるような機会とかを今後考えていけたらなど。

【市長】 それは希望ですけどね。ですから、ちょっとなかなかそんな人数になっちゃうとどうすればいいんだろうと。ただ、そういうお気持ちを無駄にしたいくはないなという思いはあります。ですから、どういう形でその気持ちを受けとめられるかというのを少し担当ともこれから話していきたいと思います。

【記者】 あともう1点、それに関して、担当の方にお伺いすればよろしいんですけど、その事前キャンプに向けたおもてなしについて、今段階でこういう方向性で、また、多分地元の子どもたちとか、川崎の文化紹介とか、そういうものは何か予定されていることとか、方向性は決まっていますか。

【市長】 そうですね。まだ詰められている話ではありませんけれども、事前キャンプのさらに事前ということで来日するということはもうわかっていますので、そういったことも含めて、いわゆる事前キャンプ、その前の事前々キャンプというんですかね。プレプレキャンプのところも含めて何かいろいろなものができればいいかなと思っています。あれはもう（報道）投げ込みしてあるんですかね。給食に、イギリスのメニューを出しますとかということをやったりとか、この前もパラムーブメントのパラフェスで、パラ夏まつりのところに、イギリスの代表チームのPRみたいなのもさせていただいたりとかして、徐々に盛り上がってきているのかなと思います。

【記者】 ありがとうございます。

【司会】 ほかはいかがでございませうか。

《川崎ブレイブサンダースについて》

【幹事社】 すみません。先ほどのバスケットの関連で、DeNAのほうで市内に新たな拠点が欲しいというような報道があったと思うんです。その後、市のほうに何かアプローチというか、協議に乗ってほしいとかという動きは？

【市長】 いや、特にはないですね。

【幹事社】 ない？

【市長】 はい。

【幹事社】 市として何か支援するとかというお考えも今のところ。

【市長】 まだ具体的なそういうようなお話にはなっていないので、今後よくコミュ

ニケーションとりますので、何かあればと思っています。

【司会】 ほかいかがでしょう。

《市バスの料金改定関連について》

【記者】 昨日、バスの料金の値上げが10月1日からの10円値上げ、大人運賃で、路線バス。10月1日には実現が至らないということで発表がありました。議会に提案する内容で、記者にもレクが当時ありましたし、議会にも議決をいただいている話だったかと思いますが、10月1日の約束したタイミングで実現がかなわなかったことについては、どのように受けとめていらっしゃいますでしょうか。

【市長】 ご利用いただいている市民の皆様にとっては、料金が引き続き据え置かれるということですから、ご利用者様にとっては、短期で見ればむしろ歓迎なのかとは思いますが、一方で、極めて近い将来、このまま料金値上げしないと経営状況が極めて悪化するということはもうわかっている話ですから、安定的な運行というのを続けていくためには、今回の料金改定というのは必要不可欠なものだと思っています。それが今回、認められなかったということは非常に残念に思いますし、算定基準ということでもありますけども、引き続き本市が訴えていることについても、今後、見直しに向けての調整が始まると聞いているところもございますので、早くそういう手続に入っていて、一刻も早く認めていただきたいなと思っています。市議会の議決をいただいておりますことというのは極めて重く思っています、そういったことも国にはしっかりと認識をしていただきたいと思っています。

【記者】 昨日、説明を記者向けにいただいた際に、昨年時点から水面下と申しますか、調整の値上げの交渉自体は始めておられたと。昨日、そういう席で、値上げがかなわなかった理由の1つに、先ほどおっしゃられた算定基準の認識の違いというのが1つあるという話がありました。昨年調整をしていて、そこになぜ早く気づいて早い段階で判断できなかったのかなという思いは1つあるんですが、そこについてはいかがでしょうか。

【市長】 このことについては、思い違いも含めてあったと国のほうから文書でもって、ある意味謝罪というか、そういったこともされていますので、正直、残念でありますけども、今の段階になってというのは正直思います。

【記者】 国から思い違いがあったと。思い違いとはどういうことでしょうか。

【市長】 思い違いという言葉が正しいかどうかわかりませんが、ちょっと正確な、何てあれだったかな、というのは。

【交通局経営企画課長】 交通局ですけれども、昨日の説明の続きになりますけれども、その収入の考え方とか、あと補助金の捉え方とか、そういう点について国のほうで基準の中で考え方に誤りがあったということですね。そういう形で市長にご説明、ご報告させていただいています。

【市長】 要は国のほうで考え方に誤りがあったということです。

【記者】 国が当初の協議を始めた段階で言っていたことと、実際、本当のことと違うことを当初の協議では言っていたと国が認めたということですか。

【市長】 要は事前に調整していたことと結果的に異なったということですね。だから、基準は変わっていないんだけど、捉え方というのが違っていたということですね。その誤りがあったということです。

【記者】 基準は変わってないけど、捉え方を国が変えたということ。

【市長】 変えたというか、基準の見方を誤っていたということだと思います。

【記者】 当初、誤っていた。

【市長】 当初誤ってということです。

【記者】 ことを文書で謝罪した。

【市長】 誤っていたということを認めたということですね。

【記者】 認めた。わかりました。ありがとうございます。

【記者】 すいません。関連で。国のほうから文書で説明があったということなんで、何日付の文書だとお答えいただいてもいいですか。

【市長】 はい。何日ですか、それは。

【交通局経営企画課長】 交通局ですけれども、8月の30日付になります。

【記者】 発出元はどこですか。

【交通局経営企画課長】 国土交通省になります。

【記者】 大臣ですか。

【交通局経営企画課長】 大臣ではありません。所管の部局の課になります。

【記者】 だから、その発出課を聞いているんです。

【交通局経営企画課長】 発出課は国土交通省自動車局旅客課バス産業活性化対策室というところになります。こちらの室長さんからいただいております。

【記者】 室長名ですね。

【交通局経営企画課長】 はい。

【記者】 ありがとうございます。

【司会】 ほかいかがでございませうか。なければ、これで終了とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

(以上)

-
- ・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355